

## バランス感覚

大阪大学大学院薬学研究科  
応用環境生物学分野 助教

原 田 和 生

私は2008年3月に生命先端工学専攻応用生物工学コースで博士(工学)の学位を取得し、同年4月より大阪大学大学院薬学研究科平田収正教授の研究室に助教として着任いたしました。本記事が世に出るのは着任後丸4年が経過しようとする頃で、果たしてそれでフレッシュマン?と疑念が生じますが、自分のこれまでを見つめ直し、後輩に何か少しでも伝えられることがあればと思い、寄稿致します。

私は前述の専攻において、小林昭雄先生・福崎英一郎先生のご指導のもと、生体内に含まれる様々な低分子有機化合物を網羅的に解析する、いわゆるメタボロミクスの技術開発および応用研究に従事しておりました。修士学生の頃は、メタボロミクスの概念は認知されつつありましたが、その技術開発・方法論は全く手つかずの状態という時代でした。そこでラボでは分析機器メーカーの方々と協力して、技術開発に取り組み始めることになり、その御蔭で修士学生の身分でありながら、メーカーの方々とお会いしディスカッションさせて頂く機会を多く持つことができました。また、博士学生の頃になると、その技術開発・方法論が確立し始め、今度は様々なバイオリジストの方々が、その技術を自分達の研究に活用しようとラボを訪問されました。私自身はそこまで社交的な人間とは思っていませんが、図らずもこうやって私は本当に多くの方々と接する機会を持つことができ、見聞を広げることができました。

ただ、その中で自分の立ち位置、アイデンティティを持つことが極めて難しく、非常に苦しい思いをしたことを覚えております。分析機器メーカーの人に比べれば生物学の事は知っているけど、分析化学の知識は遠く及ばない。バイオリジストの人に比べれば分析化学の事はわかるけど、生物学の知識は太刀打ちできない。私の専門は何なのか?私はどういう技術を持っているのか?と深く思い悩んだ時期がありました。また色々な人の話を聞くと、どれも面白く感じ、その分野

の事を勉強したりするのですが、結局希薄な知識が身に付くだけで、自分の研究に立ち戻った時に、何もプラスになっていないと感ずることも多くありました。私は学生の頃、このような(しょうもない?)事で思い悩んでいたのですが、これらの要因にはバランス感覚の欠如があったように思います。

研究者として専門性を高め、その分野のスペシャリストになることは極めて重要です。一方で、様々な分野の方との交流を持ち、視野を広げ、新しい領域を開拓していく力も必要です。昔は前者を強調する先生方が多く、最近は若い世代の先生方を中心に後者を強調する方が多いように私は思います。重要な事は、これらのどちらにも偏らず、バランスを保つことなのではと私は思います(見方を変えれば、それが一番中途半端なのかもしれませんが)。そして、個人的には、大学教員は学生のそのような意識バランスをうまく保てるように配慮するべきではないかと考えております。やたら自分のテーマとは関係ないことに興味を持つ学生には、少しは集中して取り組むように。逆に、ラボに引きこもりがちな学生には、学会や学外セミナーに引きずり出したり。このような事は「学生の個性を潰す教育だ」、「学生の好きな事を思いっきりさせてやればよい」などと批判される方も出てくるかもしれませんが、私も自分の考え方に確たる自信があるわけではありませんが、学生に対して、自分の学生時代の経験を話し、少しでも変化が現れるのかどうか様子を見ていこうと思っています。

もちろん、しっかりとした目的意識を持たないと、そもそもどのようなことに関してバランスを保てばよいのかわかりません。研究の目的はもちろんのこと、自分のキャリアパスについても目的意識をしっかりと持つことが重要だと思います。将来どのような分野で仕事をしたいか、あるいは自分の能力を活かせるのか、これを明確に意識している学生・研究者が意外に少ないような印象を私は持っています。自分の研究室学生

にはこのような事をしっかりと意識づけさせるように、努力していければと考えております。

世間では様々な機能性食品やサプリメントが出回り、新しい機能性食品素材探索・開発も盛んに行われております。健康を保つために結局は、バランスの良い食事が最も重要、というのが栄養学の帰結だったり

するわけですが、これは全てに通じるのではないかと常々感じております。

最後にこのような寄稿の機会を与えてくださいました、福崎英一郎先生に御礼申し上げます。

---

(応用生物 平成14年卒 16年前期 20年後期)

### 住所変更等のご連絡はお早めに

住所変更等の変更が生じた場合は、E-mail・FAX・郵送・電話により、なるべく早く事務局までお届け下さい。

**FAX・郵送の場合**は、同封の『変更届』に必要事項をご記入の上、お送り下さい。

**E-mailの場合**は、『変更届』の内容を直接メールにご記入いただくか、メールで様式をご請求下さい。従来どおり、お電話でも承っております。

\* 市町村合併や住居表示変更の場合も、一定期間を経過しますと、「宛所に尋ねあたらず」として返送されます。

\* ご自宅はそのまの場合でも、ご本人のみ転送届が出されていますと、1年経過後に転送期間切れで返送されます。転送期間が切れる前にお忘れなく、ご連絡下さい。

『変更届』は、工業会会員データを正しく更新するためのもので、他の目的には使用いたしません。テクノネット「会員動静」欄への掲載についても、ご本人の意思確認ができたもののみ掲載いたしますので、『変更届』送付の際は、必ず掲載の可・不可をご記入下さい。